木包みの家

北山丸太を魅せる家。時間の経過とともに変化しながら、街並みに溶け込んでいく。

ログ積みでできた隙間を収納空間として活用する。

家族、地域の人、その他動植物の拠り所となる場所。

▫ background（設計の背景）

対象敷地は、京都市内の壬生の地域とする。かつて西高瀬川が木材流通の拠点となり、木工所が多く存在し、木と深く関わりのある地域であった。しかしながら、木材需要の低下等が原因で、衰退の一途を辿っている。さらに近年では、跡地の駐車場化や空き地や空き店舗が増加傾向にあり都市のスポンジ化が発生している。そこで本計画では、現在駐車場になっている敷地を選定し、木に包まれた温かみのあるログハウスを都市の中に提案することで、住民だけでなく、地域の人に対しても安らぐ空間を提案し、また新たな地域コミュニティの可能性も検討する。

▫ concept（北山丸太を魅せる家）

北山丸太は材質が緻密で節がなく、木肌は滑らかで光沢がある美しい意匠材として有名であるが、近年では構造材としても注目されている。しかし北山林業を取り巻く情勢は厳しく、日本の住宅様式の変化に伴い、北山丸太の需要は大きく減少している現状がある。そこで次世代の木の家として、「北山丸太」を存分に用いた住宅を提案する。元口と末口の寸法の違いをハンドカットの手法を用い、画一的でない丸太の表情を活かした個性豊かな魅せるログハウスを構成する。さらにセルフビルドを予定している為、高価な部材を低コストで用いることが可能となる。またログ組みを始めとする製造過程や定期的なメンテナンス等を家族で力を合わせて作る事で、デメリットを肯定的に捉え、長い年月を住み継がれる住宅を想定する。

▫ information（基本情報）

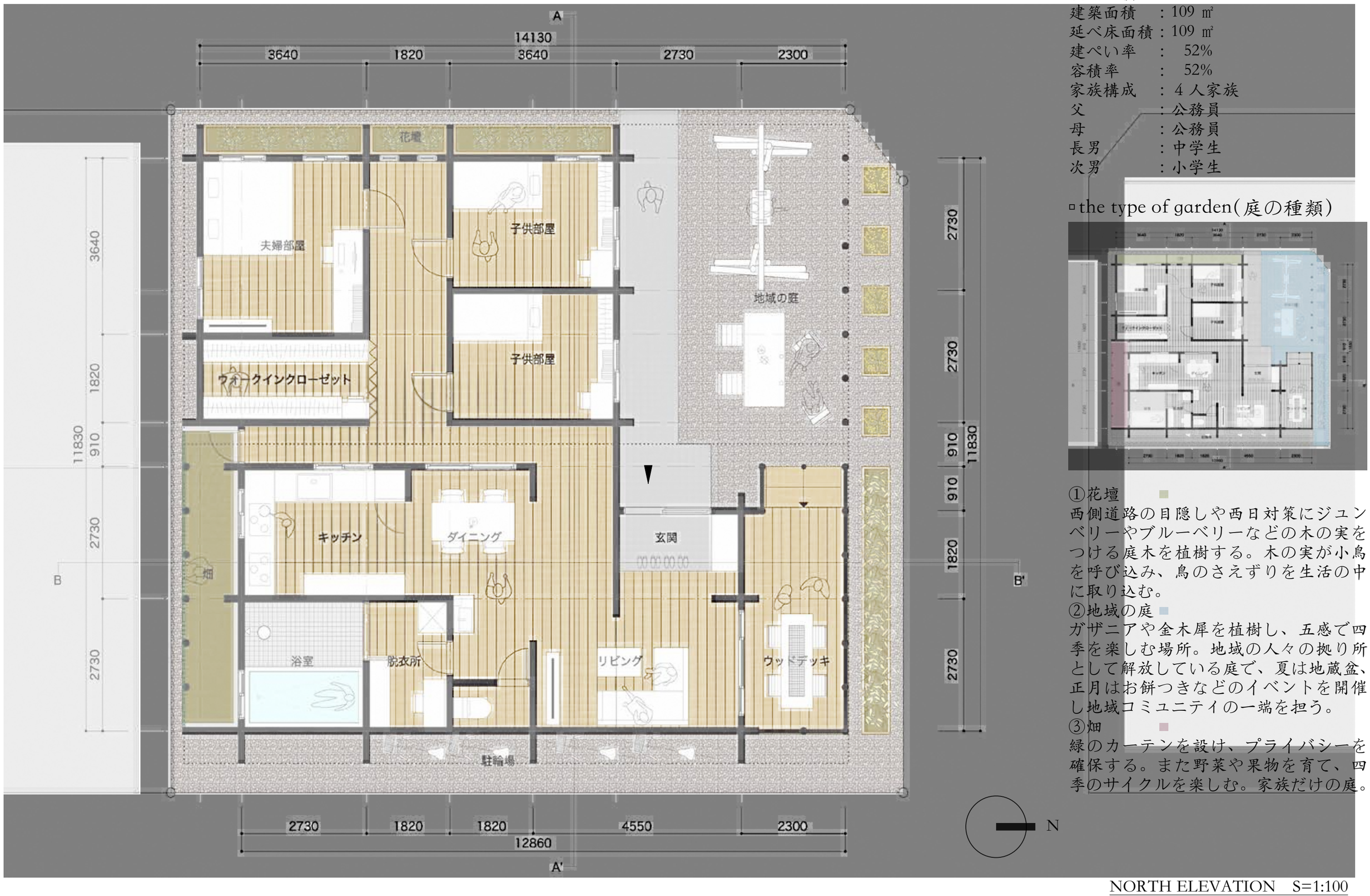
用途	：準工業地域
敷地面積	：210 ㎡
建築面積	：109 ㎡
延べ床面積	：109 ㎡
建ぺい率	：52%
容積率	：52%
家族構成	：4 人家族
父	：公務員
母	：公務員
長男	：中学生
次男	：小学生

▫ the type of garden（庭の種類）

①花壇
西側道路の目隠しや西日対策にジュンベリーやブルーベリーなどの木の実をつける庭木を植樹する。木の実が小鳥を呼び込み、鳥のさえずりを生活の中に取り込む。

②地域の庭
ガザニアや金木犀を植樹し、五感で四季を楽しむ場所。地域の人々の拠り所として解放している庭で、夏は地蔵盆、正月はお餅つきなどのイベントを開催し地域コミュニティの一端を担う。

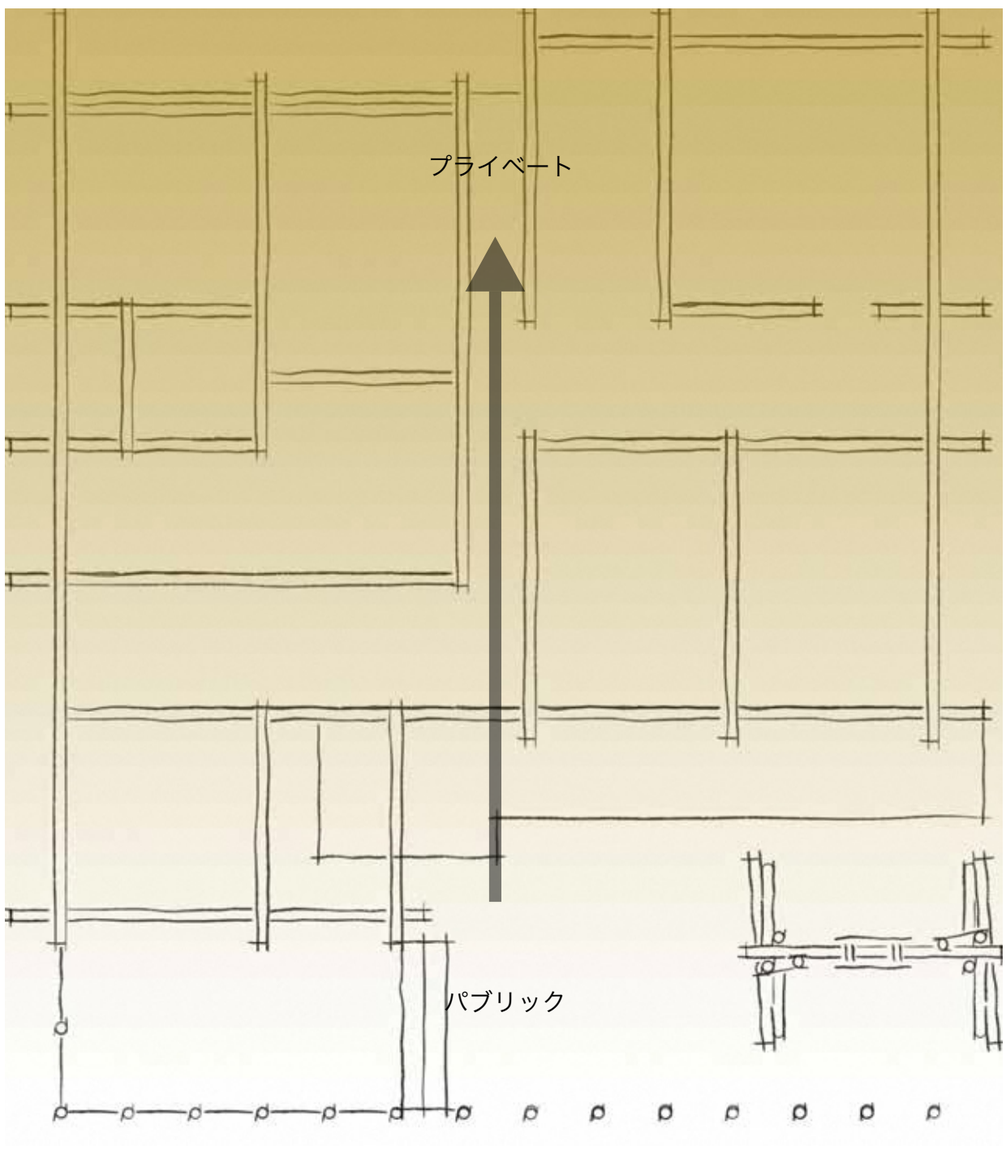
③畑
緑のカーテンを設け、プライバシーを確保する。また野菜や果物を育て、四季のサイクルを楽しむ。家族だけの庭。



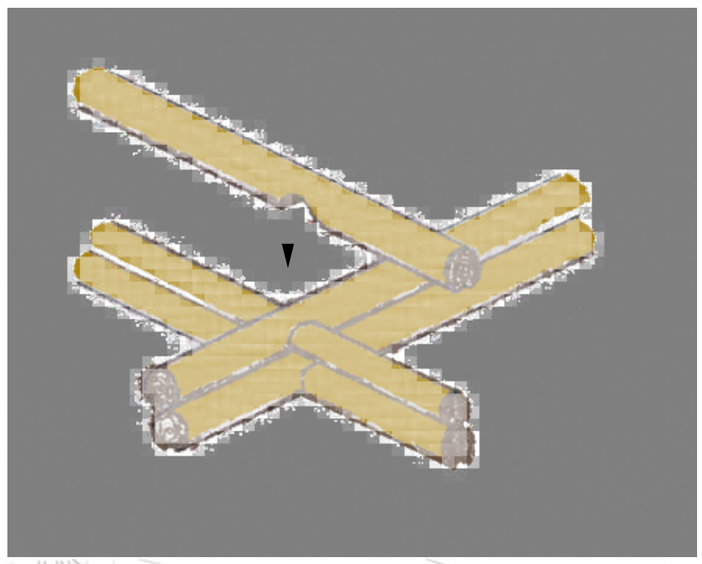
NORTH ELEVATION　S=1:100

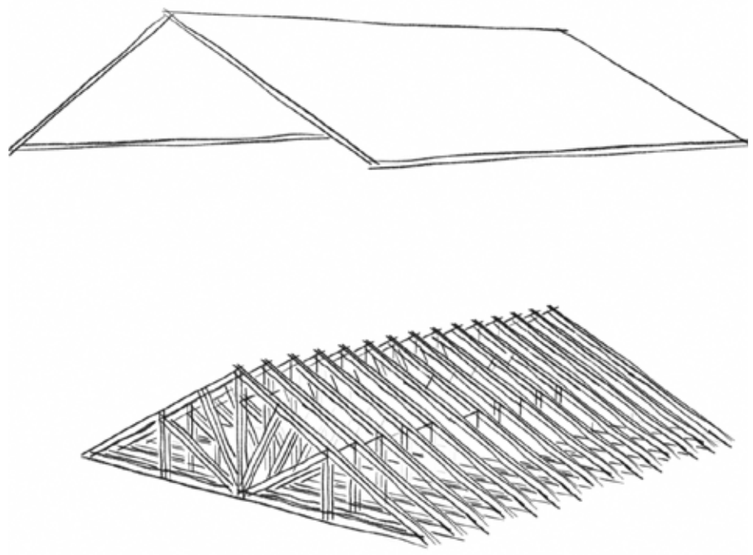
ログハウスとすることで、北山丸太の美しい表情と、反射する柔らかな光を生活の一部に取り入れ、暖かみのある落ち着く空間を演出する。

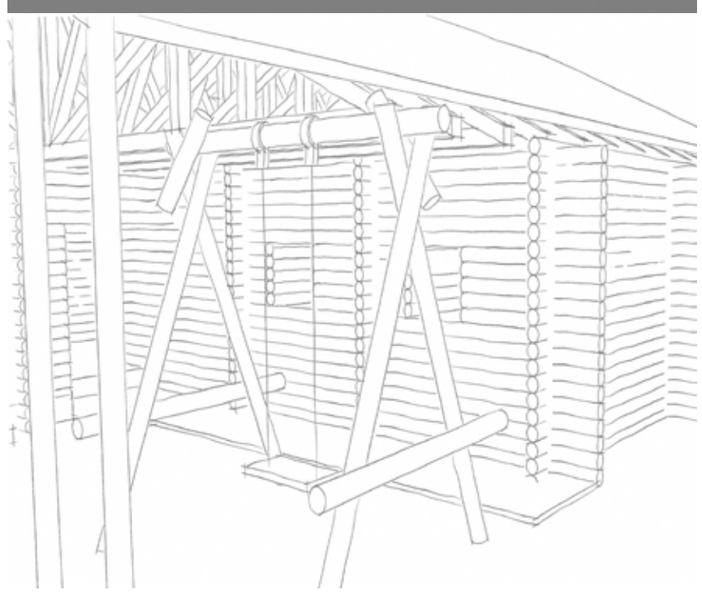
▫ area image（京町家の奥性をイメージした空間構成）

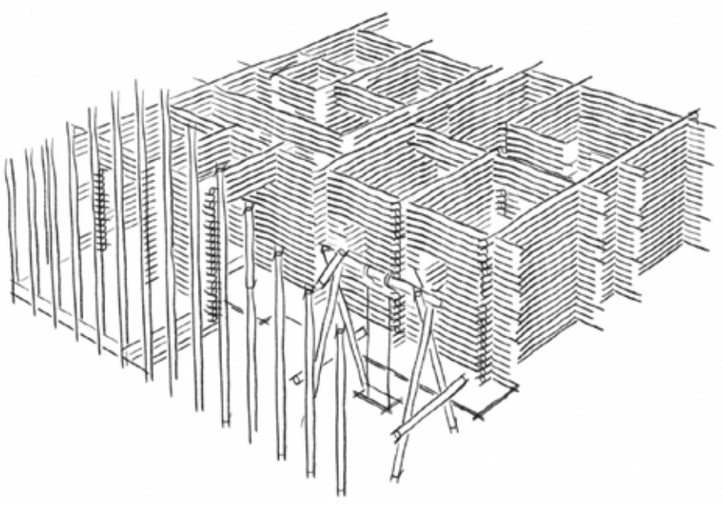


▫ model（接合方法とイメージスケッチ）



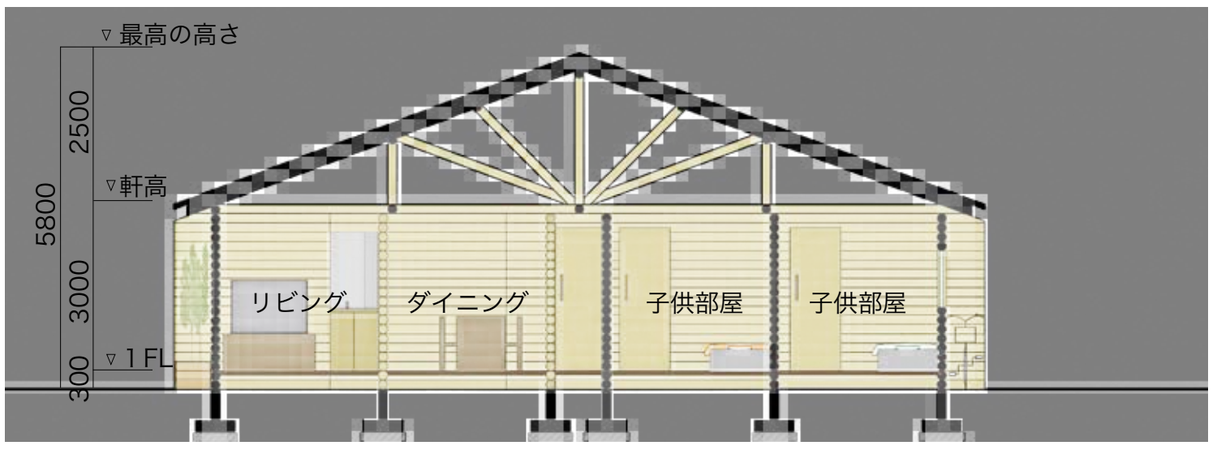




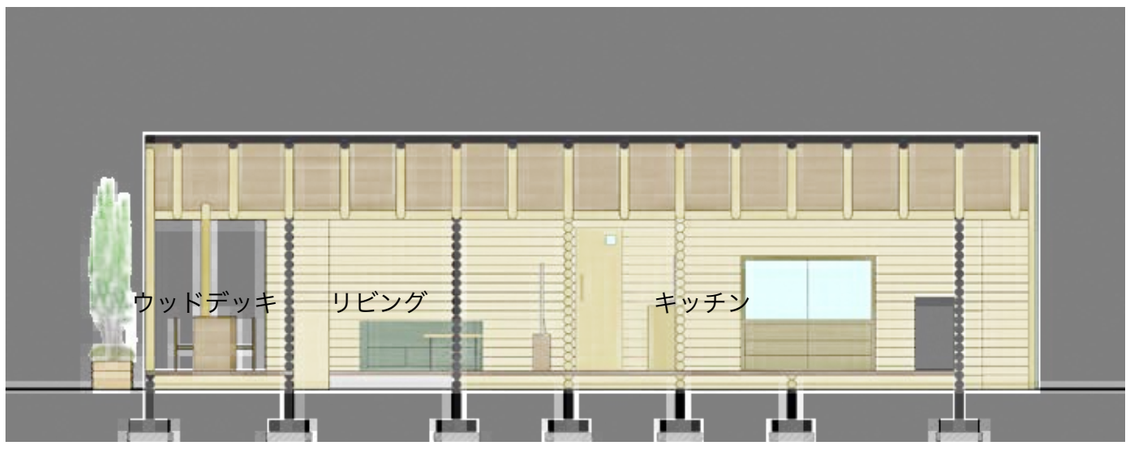


NORTH ELEVATION　S=1:100

WEST ELEVATION　S=1:100



A-A' SECTION　S=1:100



B-B' SECTION　S=1:100